



ふじさわ体協

「藤沢市体育協会広報」第23号

発行日 平成5年3月31日

発行・編集 藤沢市体育協会

〒252 藤沢市遠藤3172 秋葉台文化体育館内

「53国体に向け」 競技育成システムの推進を期待！

県体協競技力向上委員会
委員長 上野 陽一



平成十年実施の第五十三回国民体育大会が本県で開催されることが決定し、それを契機に県内スポーツ振興に関する諸問題が改めて見直され、検討が加えられてきています。すでに県教育委員会からは二十一世紀に向けての「かながわスポーツプラン」が発表され、また国体準備委員会は「国体基本構想」を発表して、その方向づけを明確に打ち出し本県スポーツ施策の基本理念が明示されました。平成三年には、この基本理念をもとに県民の生涯スポーツの普及振興と、第五十三回国民体育大会に向けての競技力向上推進体制の確立を目的として、「生涯スポーツ振興会議」が先催県に類を見ない第三機関として設置されました。この組織はスポーツ団体、学校体育団体、医療関係等の学識経験者、また市町村行政関係等の代表者で、それぞれがスポーツ現場で直接的に管理・運営に携わっている方々で構成されています。専門分野毎に競技力向上対策、指導者対策、安全・障害対策、普及振興対

策の四部門に分かれて活発な討議がなされてきました。二年間に及ぶ慎重な審議を経て、専門部会毎に具体的な答申が固められ、平成五年にはいよいよ推進のスタートが切られるものと思います。

性を秘めたこの時期に個性に応じたトレーニングによって基礎体力が上昇されれば、完成期の期待度は一層大きくなるものと思います。ややもすると「競技種目に合った体力づくり」一辺倒になり、集团的・画一的なメニューのなかで個人の能力が埋もれてしまつては元も子もありません。この時期こそ「個人ごと本人の体力に合ったトレーニング」の的確な指導が重要と言えます。そのため環境づくり、また信頼して任せられる健康管理や科学的に裏付けされたトレーニング指導等々、支援システムの整備が課題になることは、言うまでもありません。

例年、国体が終了する度に反省点として、技術的には非常に優れているが体力面やメンタル面で絶対的なパワーに欠けると指摘され、特に若年層の低迷が危惧されてきました。（勿論その年々優秀なチームや個人の競技者は生まれています。）これを解消していくには根本に潜む諸々の問題点を的確に解決していかなければなりません。小・中・高校と学校体育を通して一貫した競技選手育成システムも必要です。無限の可能

幸い本県には優秀な選手を育てた優れた指導者・名コーチを数多く抱えており、この方々の豊かな経験を通して実施されている指導法、例えば選手の性格・個性・種目に合ったトレーニングや練習法の選り出し方など、合理的で豊かな経験を分析しながら最大公約数を見つけ出しているのも有効であると思います。まさに科学的な裏付けにもつながります。

五十三年国体で活躍する中心の選手たちは、現在の小学校・中学校に在籍しています。彼らのためにも魅力ある競技者育成のシステムを創りあげ、二十一世紀に繋ぎたいと、願ってやみません。

種目協会 あらかると

—— 日本一の協会 ——

藤沢市バレーボール協会

当協会の会長以下主要役員は、全国大会優勝経験者が多い。「バレーボール」東のメッカ藤沢の地域性も高いと思われる。

全国を見渡しても、藤沢市ほど全国大会優勝チームが多い市もないと思う。

まず戦前では昭和10年に藤沢商業中学が全日本中等学校排球選手権大会と第八回明治神宮大会に優勝の快挙を成し遂げた。

戦後になると、昭和27年藤沢高校が、全日本高校選手権と第七回国民体育大会に優勝し、その後も国体三年連続優勝を含む、六回の全国優勝を成している。

又、藤沢商業高校は昭和36年、第十六回秋田国体優勝をはじめ、その後春の高校バレー三年連続優勝を含む八回の全国優勝を成している。実業団でも昭和45年に「日本精工」が全日本実業団九人制選手権大会で優勝し、女子では、「ヤクルト本社」が昭和49年50年と、実業団の六人制で優勝している。

全国青年大会でも、藤沢市代表チームが、男女それぞれ一回づつ優勝を



平成元年県総体男子4連覇 女子2連覇のメンバー

している。

昭和57年には、全国定時制高校選手権で湘南高校が優勝し、合計で25回も「日本一」を成し遂げた本市である。

近年は、地域の活性化を計る目的で、市民大会出場の選手の中から選抜して藤沢市代表の県総体チームを作り、強化練習を行なっている。成績は、男子が昭和61年より四連覇、女子は昭和63年より五連覇と、今年六連覇をも目指す勢いである。

当協会に於ては、秋葉台文化体育館設立と共に日本リーグや国際大会が本市で開催されたり、夏には鶴沼海岸で行われるビーチバレー等、全国レベルの大会がくるようになった。

選手やチームが日本一を目標に努力しているの、協会役員も負けずに、大会運営等にますますの充実を計ると共に、若手役員の育成をし、日本一の協会を目指したいと思う。

平成10年神奈川県では、バレーボールの少年男子が、新設なる秩父宮記念体育館と、県立体育センターで、又成年一部九人制が、秋葉台文化体育館で開催の予定になっている。「バレー藤沢」の名に恥じないよう協会役員が一丸となって、5年後の国体に望み、神奈川県が大成に終るよう努力と、体育協会への協力を推進していきたい。

第47回三浦半島駅伝競走大会 大会新で優勝



「19年ぶりに奪還した楯」

第47回三浦半島駅伝競走大会は、1月24日横須賀市の総合体育館前をスタートし、市立工業高校ゴールまで5区間37・345キロのコースに都市対抗の部14チームが参加して行われ藤沢市チームが追いつがる秦野市を1時間53分41秒の大会新で19年ぶり4回目の優勝を飾った。藤沢は一区で武本謙治（鎌倉学園高）がトップ平塚に19秒差2位につけ好調なすべり出しとなった。二区では吉野直亮（プレス工業）が3位に落ちたが三区斉藤哲也（神奈川大）が大会新区間賞で2位に浮上し最長区間四区で小菅一（藤沢市役所）が一気にトップに立ち、2位秦野市に19秒差をつけ、唯一の女性区間アンカーにタスキを渡した。時田貴子（湘工大付高）は、わずかな差を守りぬぎ、久しぶりの優勝を藤沢にもたらした。

郡市対抗 駅伝競走 大会



第47回郡市対抗駅伝競走大会は2月14日快晴のなか、西湘地区体育センターを9時にスタートし、ゴールの相模湖漕艇場までの九区間71・1キロで競われた。藤沢市チームは、三浦半島駅伝の勢いをと、平均20才の若さで頑張った。一区を秒差の2位で飛び出し七区まで区間賞一つの4位と良い位置をキープしたが、後半惜しくもくずれてしまった。しかし、結果は26チーム出場のなか昨年以上を上回る8位に終わった。

第8回 スポーツ人の集い 開催される



教育委員会との共催によるスポーツ人の集いが、平成五年二月二十日(土)藤沢市民会館小ホールに於て開催されました。
第一部式典では、本年度から新たに設けられた敢闘選手賞も加わって、

つぎの方々が栄えある藤沢スポーツ賞を受賞され、市長はじめ来賓の方々、ご来場の皆様の祝福をうけました。
第二部講演会では、国際オリンピック委員会委員「岡野俊一郎」氏をお招きし、

「スポーツは、人間のもっている素晴らしい文化であり、世の中で21世紀にむかって変わっていくもの、国際化・情報化・都市化・高齢化：こういふ中でスポーツがどんな役割をはたし、どんな意味があるのかをひとつひとつわかりやすく語りかけるようなご講話は、満員の聴衆を魅了しました。



“スポーツを考える” 岡野俊一郎氏

藤沢スポーツ賞受賞者のご紹介

《功労者》 三鷺利伸

「バレー藤沢」の育ての親として、バレーボール競技の普及、振興に尽力されています。

関根智治

藤沢市体育協会理事長として、体育協会の発展のため、中心となって活躍いただいています。

《優秀選手》 太田陽子(陸上)

第47回国民体育大会少年女子走り高跳び・大会新で優勝

木代 裕(バレーボール)

第47回国民体育大会成年男子2部に神奈川選抜チームとして出場優勝

佐藤利香(卓球)

第25回バルセロナオリンピックに日本代表として出場

武田淳子(柔道)

第14回全国高校柔道選手権大会女子52kg級優勝

森 文代(柔道)

第14回全国高校柔道選手権大会女子56kg級優勝

浄法寺しずか(柔道)

ポーランドジュニア国際柔道大会56kg級第3位

喜多 渉(テニス)

全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会優勝

芳野 猛・芳野 聡(テニス)

全国中学校テニス選手権大会男子ダブルス優勝

《優秀団体》

県総体女子バレーボールチーム

第43回県総体に優勝・史上初の5連覇

《敢闘選手》

大庭サツカ(スポーツ少年団)

長後ミバスケットボール少年団(男子)

川口文枝(柔道)

佐藤弘典(体操)

湘南工大付属高校体操部

佐藤秀喜(空手道)

女子団体型チーム(空手道)

県総体男子400mリレーチーム

斉藤拓也(陸上)

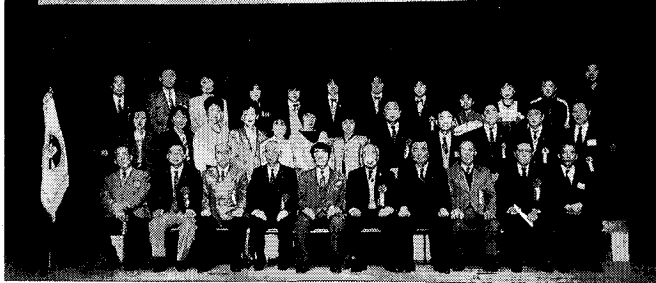
杉田明生(水泳)

以上、16名6団体

おめでとございました。

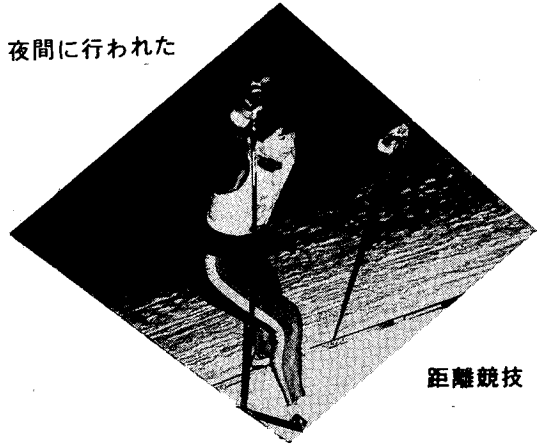
スポーツ人の集い

藤沢市教育委員会・藤沢市体育協会



藤沢スポーツ賞 受賞者のみなさま

夜間に行われた



距離競技

冬季大会スキー競技 第六位

— 第44回県総体はじまる —

平成5年2月26日から28日の日程で、第44回県総体冬季大会スキー競技会が長野県南牧村の野辺山スキー場で開催されました。

本年は積雪が少なく距離競技については夜・早朝に行われるなどの日程変更もあり選手はコンディションの調整にも苦労したようです。

本市選手団の成績は、エントリール種目全てに得点をあげる健闘で総合成績第六位という結果になりました。

平成四年度賛助会員



平成5年3月31日現在の会員の方々のご芳名を掲載させていただきます。
〔個人会員のご芳名〕

(順不同・敬称略)

- 中山二郎・大原晴夫・伊東満・脇田文雄・林良雄・土屋保三・小野孝一・宮治敦・田中淳子・熊谷卓三・柴崎鉄雄・宮本隆・石井洋秀・糸井勝治・桜井浅之・小川明・三保谷修二・波多野和敬・関野茂・渡辺英一・糸井勝平・井上賢誠・岩崎只子・畑桂一・古屋元氣・東昭一・鈴木成明・日置寧二・藤田慎一・小林英見・小林俊輔・長谷川忠勤・山口雄司・大谷浩
- 鈴木克敏・藤田正辰・桑原隆行・樹居祐三・藤塚久雄・小川竹次郎・勝呂不三夫・原弘之・瀬川進・石井皓山本幸男・内田重郎・滝内一夫・徳増久夫・沼上見・木島英夫・安斎実藤方富士夫・関水正文・久木田善蔵
- 校條紳一・西島一光・関根宗四郎・宮治政弘・栗原義夫・井上仁一・川崎涉・橋本篤治・杉山保・中村雅光
- 吉岡隆子・森山實・山本義雄・鈴木一太・友井川勇・松久保六男・寺岡武史・高科明・星八郎・山田康章・小林志光・桐生昭代・山口武・高橋清・武井英雄・前田明男・清水久雄
- 根岸勇・沼上正・政木恵美子・村田

- 静江・松崎正一・秋野広美・遠藤守
- 番場定孝・関根智治・服部忠幸・小野隆弘・坂本良作・安斎久雄・宮治敬二・西島真吾・鴻野久雄・中嶋修
- 中尾是雄・唐沢邦之・有田茂・高橋孝雄・蔵内隆良・金田育・高橋一順
- 鈴木敏之・倉幸一・杉淵武・木村三男・加藤賢治・田中利春・木村裕・浜田徹・館健三・小阪康司・西富久子・木下裕功・露木栄・鈴木得郎
- 石井功・小泉勝彦・鈴木文治・伊藤喜三郎・上笹秀雄・瀬川宗明・鹿島昇・小塚勝・矢部重信・野口肇・山本敏秋・広田正明・鈴木一郎・渡辺博美・新戸利和・斉藤勝・小池保・鈴木善行・桑原勇三・芝田俊介・小菅重矩・中代正次・鈴木作治・坂田隆・蝶名林睦・木村英勇・埜口史郎
- 高橋陽之助・土屋小夜子・鈴木明夫・福島謙・岩田明・高取節男・坂尻茂
- 鈴木恒夫・比留川久満・川路久男・大房英一・加藤誠・表隆行・中野茂
- 佐藤勝夫・薩美秀夫・上田義一・荒井勝男・天野節夫・上野陽一・塚田栄・高杉正雄・前田蔵男・松山建宇
- 二宮新次郎・石原敬久・栗原英昭・大井正信・長谷川英次・井上正一郎
- 荻込辰男・鬼沢義行・岩淵元・藤田佳也・鈴木和夫・広瀬稔・橋本幸俊
- 金子嗣・笹川良夫・竹内俊樹・大縫光宏・中丸初男・竹内真佐子・瀬戸満里子・石川昇・有田昭治・山田勉

伊澤俊彦・山田貢・石塚妙子・諸節寛行・今野充雄・東海林延友

〔団体会員ご芳名〕(順不同・敬称略)

- NTT藤沢支店・NOK(株)双旬会・ソフトテニス協会・武田薬品(株)湘南工場・柔道協会・富士バルブ(株)バレー部・プレス工業(株)・山武ハネウエル(株)・藤沢スキークラブ・松下精工(株)・(株)藤沢市興業公社・三浦藤沢信用金庫・関水スポーツ・藤沢市役所職員福利厚生会・空手道連盟・(有)ティールサービス・藤沢北西ロータリークラブ・弓道協会・野球協会・バスケットボール協会・ミネベア(株)体育部・御所見剣心会・ソフトボール協会・ヨット協会・修武館伊澤道場・亀井野テニスクラブ・(株)富士鉄錬・ゲートボール連合・藤沢ロータリークラブ・スキー協会・ラグビーフットボール協会・杉山スポーツ・ゴルフ協会・江の島フリースト・藤沢市役所軟式庭球部・体操協会・バドミントン協会・山岳協会・テニス協会・水泳協会・荏原湘南スポーツセンター・ハンドボール協会・藤沢家庭婦人バレーボール連盟

(種目協会については、藤沢市略)

本年度もご入会くださいましてありがとうございます。おかげをもちまして、個人229口、団体77口のご加入をいただき、厚くお礼申し上げます。